

# 狸久保なみきくぼの 犬の字の呪文

昭和六十三年十月五日号

鷹岡の久沢に狸久保というところがあります。昔、このあたりはタヌキが多く、通る人をばかしたと言われます。今回は、狸久保に伝わる「犬の字の呪文」の話です。

## 道端にうずくまる娘

昔、鷹岡の北部を通って甲州へ塩や魚を運ぶ道がありました。

ある日、田子の浦の魚屋が甲州へ行った帰り道、天間沢を渡って坂道にかりました。秋の日は暮れるに早く、あたりは既に暗くなり始めていました。

ふと前を見ると、きれいな娘が道端の石に



腰をかけて泣いていました。魚屋は一体どうしたのかと尋ねました。娘は「私は甲州へ奉公に行つています。母が病氣だという知らせを受け、ここまで来ましたが、目の前に人だまがあらわれました。きつと母が死んだに違いありません」と言いました。

魚屋は「それはかわいそうだ。私も同じ方  
向だから一緒に行こう」と励まし、先を歩き  
始めました。

## タヌキのいたずら

しばらく行くと、すっかり暗くなりました。すると、生温かい風が魚屋のほおをなでました。魚屋が振り返ると、どこへ消えたのか娘の姿が見えません。「はて？」と思いつながら前を見ると、目の前に一本の大木が道いつぱい

に生えています。

魚屋は「これはタヌキのいたずらに違いない」と思い、素早く足元の小石を拾つて石に「犬」という字を書き、力いつぱいその木に投げつけました。すると、大木は二つに裂けて倒れたので、魚屋は一目散に逃げ帰りまし

## ムジナ塚という地名も

小林邦隆さん(久沢北)

久沢北の小林邦隆さんは「昔の狸久保のあたりは人家がなく、本当にタヌキがいただろうね。子供のころは近寄れなかつたよ。タヌキのことをムジナと言ひ、ムジナ塚という地名もあるよ」と語つてくれました。